



ヴィジュアルデザイン研究室

Visual Design Lab.

今井 美樹

IMAI, Miki / Professor



# ドラえもののひみつ道具の実現についての考察

## Consideration on Realization of Doraemon's Himitsu-Dogou, or Special Tools

### 考察

漫画家、藤子・F・不二雄の代表作「ドラえもん」の作品中に現れたひみつ道具は約1600個あり、その中には実際に実現されているものや性能が似ている商品などがある。例えば、食べるだけで翻訳できる「ほんやくこんにゃく」はイヤホン型ウェアラブル翻訳機の「WT2 Plus」として、水を濾過して直接飲める「ま水ストロー」は「ライフストロー」として実現されている。いろいろ調べていくうちに、IoTの技術が進むことでひみつ道具が実現されていることが分かった。実現したひみつ道具を分析して、藤子・F・不二雄の先読み能力と現代の技術の進歩の素晴らしさを比較する。調査したひみつ道具は以下の20件である。

### ひみつ道具(掲載年)と実現されたもの(開発年・発売年)

- 01: 室内旅行機 (1972年) → 室内旅行機 (2015年)
- 02: インスタント旅行カメラ (1972年)  
→ Adobe Photoshop Mix - 写真加工アプリ (2014年)
- 03: 空気砲 (1973年)  
→ ドラえもん ひみつ道具くうき砲 (2017年)



大西 健太  
ONISHI, Kenta

- 04: ボラロイドインスタントミニチュア製造カメラ (1974年)  
→ 3D-CAD (1977年)
- 05: ま水ストロー (1974年) → ライフストロー (2005年)
- 06: 動物語ヘッドホン (1975年)  
→ バウリンガルボイス (2009年)
- 07: セルフ将棋 (1975年) → セルフ将棋 (2014年)
- 08: 空気クレヨン (1975年)  
→ LightSpace - 3D painting in AR (2017年)
- 09: めんくいカメラ (1975年) → めんくいカメラ  
～イケメン・美人しか写らない恐怖のカメラ～ (2014年)
- 10: 立体コピー紙 (1975年) → 3Dプリンター (2014年)
- 11: いたわりロボット (1975年)  
→ ASIMO (2000年)、Pepper (2015年)
- 12: ほんやくこんにゃく (1976年)  
→ オフライン音声翻訳機 iii (イリー) (2017年)、  
POCKETALK (ポケットーク) (2017年)、  
WT2 Plus (2019年)
- 13: オコノミボックス (1979年)、糸なし糸でんわ (1985年)  
→ スマートフォン (1994年)
- 14: スパイ衛星 (1979年) → ドローン (1970年)
- 15: 海水のもと (1982年) → レッドシーソルト (1995年)
- 16: ペットペン (1984年)  
→ お絵かき水族館 / Sketch Aquarium (2013年)
- 17: ウォータークリーンシップ (1984年)  
→ シービン (Seabin) (2017年)
- 18: ききがきタイプライターとマイク (1984年)  
→ 音勢認識技術 (1971年)

- 19: 望遠メガフォン (1986年) → 望遠メガフォン (2014年)
- 20: パズル貯金箱 (1989年)  
→ 秘密箱 (1894年)、  
ルービックキューブバンク (2010年)

### 調査結果

結果を見ると1970年～2009年の間に10件の商品が、2010年～2019年の間には、15件の商品が開発されており、直近の10年間で急激に増えていることが確認できる。調査した中には、IoTの技術が使われている商品や、スマートフォンのアプリとして実現しているものが多い。

情報技術 (IT) の変遷をたどると、1990年頃からデジタル化が進んでパソコンが普及し、2000年頃にインターネットなどの通信技術が進んで携帯電話が普及し、2010年頃にはIoTの技術開発が進み、スマートフォンが普及しだしている。以上からひみつ道具の実現にはデジタル化に伴ったIoTの技術とスマートフォンが基本ツールだと考えられる。



図1: ほんやくこんにゃく



図2: オフライン音声翻訳機 iii (イリー)



## 花を用いたパターンデザイン

### Patterned Designs Using Flower Motifs

季節の花は人々の心を癒す。現在生活の中心に花を取り入れている人はごくわずかで、その中でも日本人はシンプルで落ち着いた生活空間を好む傾向にあり、自宅の壁や床に柄を取り入れる文化があまりないように感じる。そこで、花柄をもっと身近なものにしようと、花を用いた壁紙のデザインを行った。合計20点の壁紙は、人の心を明るくするような花言葉を持つ花を使用した。カラフルな色使い、葉や茎の形も意識し、若者にも親しみやすいデザインを心がけた。そして、花柄の良さをより感じてもらうため制作したデザインを用いたコンセプトホテルを計画した。ホテルの客室は壁紙を貼るだけでなく、バスルームやトイレなどにもこだわりその花の世界観がより伝わるように計画。このホテルを利用した人が、生活空間の中に少しでも花を取り入れるきっかけになりたい。



前田 成美

MAEDA, Narumi

